

暦の上では春になったとはいえ、まだまだ寒い日が続いています。「早春賦」の一節「春は名のみ風の寒さや」を思い出します。春の感じかたは人それぞれあると思います。三寒四温を繰り返す、今の気候に春を感じるかたはいらっしゃると思います。私自身はスキー場のゲレンデの雪が解け、ふきのとうが芽吹いているのをリフトの上から見付けた時、「春だな～」と感じます。感じ方は人それぞれですが、春は一步、一步近づいています。今月も取り止めもない書き始めになりましたが、今回は禁断のテーマともいえるクレーンの転倒事故について、お話ししたいと思います。

クレーンの転倒事故の話

今年に入って特にクレーンの転倒事故が多く起きているように思います。下の写真は新聞やインターネットニュースで報じられたものの切り抜きです。両方の事故ともクレーンの転倒による、起きてはならない**死亡災害**です。この事故以外にも今年に入り、クレーンが転倒したという情報を多く耳にします。

私自身も25年程クレーンの整備業に携わっていることもあり、クレーン転倒時の引き起こし作業に借り出される事があり、多くの転倒現場を見てきています。私の経験上一番に上げられる転倒原因は**オーバーロード(過負荷)**だと思っています。特に今のオーバーロードは**不十分なアウトリガ-の張出し幅**に起因するものが多く、

2004年(平成16年)2月21日 土曜日



作業中に横転したクレーン車
—小田原市相山

クレーンの下敷き
小田原市相山にて、同日午後二時、同市内の公道でクレーンが横転し、乗車していた男性が死亡した。同市消防局によると、クレーンが横転した際に、公道に横たわったクレーンが、公道を走行していた乗用車に横転し、乗車していた男性が死亡した。クレーンが横転した原因は不明だが、公道が狭く、クレーンの張出し幅が不足していたと見られる。公道の幅は約4メートルで、クレーンの張出し幅は約6メートルに達していたと推定されている。公道の幅が不足していたため、クレーンが公道の端に横転し、公道を走行していた乗用車に横転したと見られる。公道の幅が不足していたため、クレーンが公道の端に横転し、公道を走行していた乗用車に横転したと見られる。

社会ニュース - 2月27日(金)13時51分

工事現場で3人死傷 クレーンの作業台から転落

27日午前8時半ごろ、北海道奥尻町湯浜の工事現場で、クレーンで地上約30メートルまでつり上げた作業台から作業員3人が落下し、札幌市北区、[]と同区、作業員[]の2人が死亡、作業員1人が肩に軽傷を負った。

工事を発注した函館土木現業所と江差署の調べでは、3人を含む同社の作業員5人で午前7時ごろから、道道のり面の岩を削って平らにし、落下しないようにする作業をしていた。

事故当時は、足場となる作業台をのり面に固定するため、約4メートル四方の作業台に3人を乗せてつり上げていたが、突風が吹いてバランスを崩し、3人が落下。クレーンも転倒した。(共同通信)

[2月27日13時51分更新]

左の新聞記事の転倒事故もアウトリガ-の張出し幅が十分確保できなかったことが原因で起きたように掲載されています。現在のラフタークレーンの多くはアウトリガ-の張出し幅や旋回方向を検出して、クレーンの作業状態にあった定格総荷重を表示し、オーバーロード時にクレーンが停止するような構造になっています。そのような構造になっているにも関わらず転倒事故が起きるといことは、**過負荷防止装置を解除して使用しているからではないでしょうか！**昔に比べ今の作業現場はクレーンのオーバーロードにうるさくなっています。過負荷防止装置を解除して使用することは、時代遅れといわざるを得ません。「オーバーロードもオペレーターの腕のうち」などと

思っているかたはいないと思いますが、「後少し」「経験上大丈夫だよ」「ついうっかり」などなど心の油断が大きな災害に結びつくことは、いうまでもありません。**安全装置は解除せず細心の注意をはらい、クレーンの運転を行ってください。**二番目の転倒原因は、**アウトリガ-を張出す地盤の養生**です。通常クレーンのアウトリガ-の各フットには機体重量と吊り荷重を合計した重量を分担して支えています。この支持する力をアウトリガ-反力と呼びます。このアウトリガ-反力はブームの角度・長さ・旋回方向などで変化します。ブームが向いた側のアウトリガ-フットには**一瞬にして、全重量の70%~80%**に相当する反力が加わります。アウトリガ-フットの小さな面に大きな力が加わらないように、**十分な強度と安定性のある敷板や鉄板を敷いて荷重を分散させてください。**地盤の沈下や敷板の崩れによる転倒事故も多く見受けられます。現場の作業員に「早くクレーンを動かせ！」といわれても、慌てず・騒がず地盤の養生をしっかりと行ってから、クレーン作業を行ってください。

以前タイヤの脱落事故のお話をした際、「タイヤは命をのせている」というキャッチコピーをご紹介したと思います。まさに「**クレーンブームは命を支えている**」といっても過言ではありません。

日々、転倒事故というリスクを背負い、朝早くから夜遅くまで、クレーンを運転されているオペレーターの皆様のご苦勞は大変なものだと思います。是非安全作業を遵守されクレーンを運転される様お願い致します。

ご不明な点、分からない事等ありましたら是非ご相談ください。